

平成 25 年度青き誇りプロジェクト 報告書

趣旨：青木村のこれからを担う青年・青少年が村を誇りに思えることを目指すため、私たちは、大正 10 年から昭和 36 年に村の青年会が刊行していた「青木時報」に注目をした。村の自治向上を目的に刊行され、毎月村内全戸に無料配布され、村民が村の様々な問題について意見交換されたという。インターネットなどが普及していつでもどこでも情報が手に入る今こそ、青木時報のようなアナログで人の温もりが感じられる、地域のメディアが必要だと考えた。そして青年・青少年が集い語る場の「青木若者会議」を開催。また村の文化財宮淵神社神楽殿を活用した「神楽殿サウンドフェス」を開催した。今回のプロジェクトのテーマは、「温故知新」。世代を越えた協働と交流を進めたい。

1 「平成青木時報」の発刊

村の出来事や、人にフォーカスをあて、編集し発刊した。年間 9 号の平成青木時報を発行することにより、村で活動している人や村の魅力などを発信し、多くの方に読んでもらえ、反響があった。



SBC テレビ「ナウマンゾウのメガホン」より 平成青木時報創刊号と青木時報創刊号

2 「文化財の活用、神楽殿サウンドフェス～復活！まわれ回り舞台～」の開催

村の文化財で江戸時代に建てられたという回り舞台もある神楽殿を活用するイベントを開催した。約 26 年ぶりとなる神楽殿を利用したイベントの開催により、約 200 名近い集客ができ、メディアにも紹介してもらえ、文化財の価値の再認識と発信ができた。老若男女が集い、交流をする機会にもなった。

3 「青木若者会議」の開催

グレート☆無茶氏の基調講演を聞き、青木村のこれからについてのワークショップを行なった。村の若い人が集い、意見交換をすることにより、いろいろなアイデアを聞くことができた。



今後について

どれも初めての試みのため手探りで進めてきたが、確かな手ごたえがあった。応援してくれる方も増えた。改善点は収益事業の充実と、デザインと質を良くし多くの人に読んでもらうこと。メンバーや協力者を増やすことである。今回の反省を活かし、若い視点とアイデアから事業を行ない、多くの方と交流し協力して、よりよい活動をしていきたい。

実施団体：泥百笑（どろひゃくしょう）。村内外の 20・30 代メンバー。

代表：山浦和徳 連絡先：090-2308-8270 aokiiho@gmail.com